

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	社会福祉法人 釧路啓生会 グループホーム きたぞの	評価実施年月日	平成20年2月25日
評価実施構成員氏名	笹森 堀 飯島 池田 中倉 高橋 長崎 木村		
記録者氏名	笹森美雪	記録年月日	平成20年2月29日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>事業所の理念をもとに地域に根ざし、互いに支えあえるグループホームを目指している。</p>	○	近隣住民に幅広く理解してもらえるよう努める。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>理念を理解し、実践していく事を常に心がけている。入居者の生活支援や、状態変化に伴うケア内容の変更、確認時においても、理念に沿った対応を心がけている。理念に沿ったケアを実践する為、毎月コミュニティ会議で検討している。</p>		毎月ユニット内で理念に沿った目標を立て、ケアの質の向上に繋げている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>家庭に日常の生活を伝える際や、ボランティアさん、運営推進会議の際に、理念をもとにした対応を行っている事を伝えている。又、ホームの理念を理解してもらえる様、ホーム内行事への参加呼びかけを行っている。(園芸ボランティア、収穫祭、ふれあいランチ)</p>		ホームの広報誌に記載し、町内会に回覧しているので、理解して頂けるよう努めている。今後も継続する。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>地域に案内板を設置。 施設脇にパークゴルフ場があり地域の方に開放して使用していただき交流をもっている。また個人で作上げた花壇の観覧に招かれることもある。</p>	○	収穫祭の参加を呼びかけた。もっと気軽に立ち寄ってもらえるよう工夫をしたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会の特別会員にいただき、町内会行事、地域学校行事等へ参加交流を行っている。</p>	○	町内会での焼肉会、盆踊り大会に招待され、参加した。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>同法人の特別養護老人ホームの交流施設を開放し、サークル活動に使用していただきながら参加、交流、また、ボランティアによる交流も行っている。 季節の大きなイベントを開催し地域の方との交流を行っている</p>		同法人特養の地域交流スペースを開放。パークゴルフ場の開放

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>意義を理解し、サービスの改善・向上に繋げている。</p>	○	改善の必要性がある時、検討のうえ見直しをする。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>ホーム内の行事の取り組み状況及び参加人数、更に軽作業、余暇活動の内容及び参加人数に至るまで報告している。加えて事故報告も行っている。また運営推進会議でのアドバイスを施設運営に取り入れている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>地域包括ケア会議に出席し、情報を得てサービスの向上に努めている。運営推進会議録のホームだよりを市役所担当者に提出し、ホームの状況を報告している。都度アドバイスを受けている。</p>	○	機会があれば積極的に参加したい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>活用している。 必要に応じて説明を行っている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>周知、徹底している。</p>		普段から身体観察を行っている。又、言葉による虐待にも注意し、職員が互いの言動をチェックし合える様心がけている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居時に契約、重要事項説明書、入居のしおりにて説明している。</p>		疑問に関してはいつでも質問に応じ、答えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の場において入居者から直接意見を求めている。日常の関わりのなかで入居者の声を大切に訴えのある部分は職員で話し合っている。	○	意見や苦情を傾聴し速やかに対応していきたい。苦情解決委員会を設置している。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月の預かり金の収支報告実施、年一回の家族懇談会にて生活状況の報告、意見交換。また家族の来訪時には近況報告を行い希望があれば日誌の閲覧他複写物も渡している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎年7月に家族懇談会を開催している他、意見、不満、苦情を受け付ける体制、解決するための体制が整っており重要事項説明書にも記載している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	口頭でも行っているが日々情報ノートを活用している。また月一回ユニット会議を行い職員が集まり情報交換を行っている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態または行事等に対応できる勤務調整を行っている。三交代シフトで勤務を組んでおり入居者の生活の流れに沿えるよう工夫している。		入居者の状態に合せ、勤務時間の調整や人員調整を行っている。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の離職による補充や、入居者との相性等の相応の理由がない限り異動はしない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>当法人に認知症高齢者ケアの指導者が居り、隣接する特養ホームとの合同で研修を行っている。</p> <p>施設外の研修、施設内の研修は定期的に。また、経験や能力に応じた研修を組み込んでいる。</p> <p>日々の中では具体的な指導を行う。</p>	<p>リーダー研修会の開催。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>交換研修会で情報交換を行っている。</p> <p>また、GH協会に参加し研修や情報交換を行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>人事考課制度を導入し上司との面接実施(一部職員)</p> <p>毎月のGH会議</p> <p>人材育成研修の機会の利用、日常的には管理職員の声かけ。</p>	<p>職員会による親睦会</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>人事考課制度の導入をしており、昇格等は法人の基準に基づき実施されている。</p> <p>定期的な職員研修を実施している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>センター方式を導入することにより過去の暮らしや困っていること、希望などの情報収集に努め、更に会話を持つことで本人の状態ニーズの把握に努めている。</p>	<p>入居者一人ひとりとの傾聴を大切に心掛けている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ホームでの生活が理解できるよう、見学の機会を設けている他、ホームでの生活に、望む事を確実に聴き取るよう、充分コミュニケーションを図っている。</p>	<p>同上</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当ケアマネージャーと連携をとっている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居時には担当ケアマネージャーとも連携をとっている、ほか希望があればいつでも見学できる体制にある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の目線にあわせ本人の言語でゆっくりとコミュニケーションをとっている また、縫い物、調理などの場面では教わる機会が多いため意識的に場面作りを行っている。		入居者との会話を多く持ち、昔の出来事や、得意なことを教えて頂いている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ホーム内での行事を企画する際には、家族の参加を促し、協力いただいている。ほか、希望により、随時相談を受け入れる。		家族さんとは、状況によってはより密に連絡を取り合い入居者さんを支えている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでの関係を維持できるよう 家族懇談会等やクリスマス会等の行事、家族参加型の行事を行っている。		家族さん参加の行事を行った。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人の来訪は常に歓迎している また、ドライブ等では希望により「馴染みの地」、「思い出の地」めぐりを行った。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	リビングでの居場所は、自然と気の合う入居者同士となり、関係を保てるよう声がけ支援している。 他者との関係を好まない入居者には、無理せず本人の生活スタイルを尊重している。		AMの健康体操、合唱。 PMの余暇活動を通し交流が行えるよう支援している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居の場合も十分な情報提供ができる記録を準備している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	テレビを見て過ごしたい、毎日趣味活動を行いたい、家事作業を手伝いたい等、本人の意思決定が出来る様全職員に周知している。		コミュニケーションの中から把握に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者さんとの会話の中や、家族さんからの情報を得るセンター方式を活用し情報収集し把握している。		センター方式の利用。本人、家族さんとの会話の中で教えて頂く。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	15分ごとの安全確認と共に行動の把握を行い、一人ひとりが何をどこまで出来るかを関わる都度見極め職員間で情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	全ての職員の気付きや意見を採り入れ フロア会議でのカンファレンス 介護計画書作成にあたり家族さんの意見・要望を伺い同意を頂いてます。		情報ノート等活用し全職員の意見を集め作成している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間ごとの評価、又状態の変化に応じ都度話し合いを設けている。他に全ての職員の気付きや意見を採り入れられる様、会議の際ケース検討を行っている。		介護日誌等活用し、状態変更時には見直します。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランや介護計画に沿った日々の状態・様子はパソコン内及びすぐに目の届くところにあり情報共有可能です。		介護日誌や情報ノートを活用。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族さんの要望により買い物、墓参り等の外出や正月の外泊もしている。また、併設の特養ホームの喫茶店、売店、理容室なども利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察、消防との協力体制については隣接する特養と一体で行っている 定期的なボランティアさんの訪問により会食、絵本の会、音楽演奏等行っている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要時は、いつでも支援できる体制にある。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に包括センター職員が出席し情報、アドバイスを頂き協働関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が巡回し日々の健康を管理、相談行う他、必要時にはかかりつけ医との連絡を行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	特養の嘱託医として優心病院の医師を配置しており受診しやすい環境にあり、往診も行っている。		今後は、協力医としての交渉をしたい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	隣接する特養の看護師が巡回しており健康管理、医療関係との連絡が行える体制にある。		定期的にバイタル測定を行っている。入居者の状態変化時はかかりつけ医に看護師としての所見を情報提供している。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院が必要か否かは医師の判断と考えられるので問い合わせや協力依頼があった場合には速やかに対応できる体制がある。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取り介護の意向を事前に伺い指針に沿って説明している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	職員に対し、看取り介護の研修会を開き教育している。家族、医療関係、職員間の情報交換を密にし入居者さんの想いを第一に進めていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居の際、十分に説明を行う また、職員には事前調査表を用い情報を得、スムーズに生活がスタートできるように努めている。また、住み替え前の生活環境が維持できるよう馴染みの家具や、生活用品の持ち込みをお願いしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>言葉遣いや行動、振る舞いに関しては常時チェックし、指導を行っており、記録のとり扱いにも留意している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>希望の表出や、自己決定が難しい入居者には、本人の意思が反映しやすいようにいくつかの選択肢を用意し本人の意向を確認している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>起床、睡眠時間は個々に合わせている。 食事時間の差も食事を温めるなどの対応をしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>衣類は自分で選んでもらい着用している。 散髪も家族と外出し美容院(カット、パーマ)に行く人もいる。</p>		<p>希望を伺い床屋さんの予約を行う。 お化粧品も自由に楽しんでいただいている。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>昼食は入居者とともに作り、職員と後片付けも一緒に行っている。 中庭にて家庭菜園を行っており調理に用いている。</p>		<p>家庭菜園で収穫したものや家族さんが持ってきてくださる山菜等の下処理を皆で力を合わせ行う。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者の嗜好は把握しており、おやつは最低毎日一回食べているほか、要求あるときは随時適切に対応している。 現在飲酒、喫煙されている入居者はいない。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表を用い排泄リズムを把握し出来る限り事前の声かけ、誘導に努めている。また、職員に対しては、十分な配慮をする様指導している。		いつまでも自分の足で、トイレに通えるよう声かけし、誘導、介助している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週に6日実施しているので寛いで入浴できる体制となっている。 十分楽しんで頂けるよう時間を組んでいる。		入浴順番は公平に組み替えているが、希望、タイミングの決定は本人の意思による。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	起床、睡眠時間は個々が決め生活リズムを創っている 昼寝等も各自自由に行っている。 夜間も15分毎の巡回を行い安全、安心の提供に努めている。		AMの体操や余暇活動など、日中の活動を充実し生活リズムを大切にしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の準備や後片付け、さらには縫い物、唄、手芸等個々の得意な面を日常生活の場で活かしている		食事の準備や後片付け。余暇活動。ドライブ、ショッピング等の行事の計画。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理可能な方は自身で行っており、買い物も自由に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	隣接する特養でのイベントに参加したり喫茶店で好みのものを味わったり天気の良い日はホーム周辺の散歩も行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事計画に入居者さんの希望の場所、思い出の地等を組み込んだドライブを数回企画し、実施した。 また、天気次第で突発的にドライブに出かけることもある。		お花見、紅葉ドライブ、以前住んでいた所めぐり、懐かしの地ドライブ等行った。 家族さんとお墓参りに出掛ける方もいる。 お正月には外泊をする。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	グループホーム内に設置の公衆電話を自由に使用している。 また、年賀状や絵手紙のお手伝いも行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来客時は必ず笑顔で迎えることを職員に徹底し、お茶を用意し近況を申し添えるなど会話の糸口にしていただけるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員に周知徹底している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者さんの危険防止、安全を確保する為、玄関にのみ施錠をしているが家族さんの了解を得ている。ホームの中庭には、自由に出入られるよう、日中はリビングの施錠を開錠にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員の配置は入居者さんの状態により流動的にし15分おきの安全確認、所在確認を行っている。 夜間の体制には夜勤者一人となるので他入居者の対応をしている場合は見守り困難な場合もある。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤や消毒物、薬、刃物等の危険なものは保管場所を限定し一部施錠をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止の為のマニュアルを作成し、その実践につとめている。事故発生時は事故報告書、インシデントレポートを作成し、シエル分析時、十分な話し合いをし、適切な改善策を講じ、事故の再発防止につなげている。		夜間のセンサーの使用。薬は保管庫にてホームで管理。消防の訓練もやっている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	医務による 職員研修及び消防署による救急救命の講習会に参加し、指導を受けている。 緊急時の対処法についてはマニュアルを作成し特養医務室と、医療連携をとっている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	緊急時対応のマニュアルを作成しており、消防との協力体制については隣接する特養と一体で避難訓練、夜間を想定しての訓練を行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居者さんのリスクを含めた状態をこまめに家族さんに伝え、同意を得る。 サービス担当者会議にて状態に応じた対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	個々のケアプランにより健康支援を行っている。定期的なバイタル測定、異変や変化は日誌に記録し医務へ報告し指示を受ける他、家族との連携を図り、かかりつけ医への受診を支援している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方箋は個人ファイルに綴り、情報共有し、服用に関しては複数の職員の確認にて与薬し、服用後の状態変化等観察、記録を行っている		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便表を利用し排便パターンを知るとともに水分チェック表や健康体操等取り入れている。 また、状態によっては下剤の服用も行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後及び就寝時に、歯みがきが可能な方には、声かけ誘導を行い、義歯装着している方には義歯洗浄剤を使用する等、清潔保持のための支援をしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	全員の食事摂取量を把握している。 必要と思われる人、身体状況に応じ摂取量の観察、記録をしている。 希望や身体状況に応じて、お粥の選択が出来、嗜好も取り入れている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを作成、実施している 消毒の実施、温度、湿度の調整、換気にも留意している。		出入り口に消毒マットを使用。 うがい、手洗いの実施。 消毒液使用の掃除。 体調不良者には、感染症対応実施。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	朝、夕は隣接する特養で専門のスタッフが衛生管理の下で食事作りを行い、屋に関しても新鮮な食材を使い、調理器具、布巾等の消毒もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	道路から玄関入り口までインターロッキングのスロープになっており、脇には鉢植えを置いている。 花壇の花や家庭菜園も交流の場になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレ周りの壁紙の色調を暖かみのある家庭的なものにしている。フローア脇には畳の和室があり和み、トイレ、風呂場、居室にのれんをかけ、雰囲気がとても和らいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアは広く、テレビ、ソファを設置。自由に使っていただいている。皆さん気のあった方と共に決まった場所を見つけ落ち着いている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	希望により家具、装飾品等なじみのものを持参できる。 テレビや仏壇なども持参されている方もいる。		今後も居心地良い環境づくりの為、家族に協力を働きかける。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日の換気は徹底して行っている。夏場、冬場、又日中夜間と細めに調整を行っており冬場には加湿器、加湿タオルも使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部はバリアフリーになっており、手すりが設置されている。各所にいすを置き、ホーム内の歩行運動の際には自分のペースを守る為に、自由に使用してもらっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者さんの目線に合わせて、本人の言語、能力に配慮して急がず、ゆっくりと、混乱なく暮らせるよう支援している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏場の天気の良い日には、ベランダや中庭で昼食をとったり、ティータイムを過ごし、更には、日課としている健康体操・合唱も外で楽しんでいる。又、ホーム周辺の散歩、外気浴等に利用している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>不安行為見られる時は、話の傾聴に心掛けている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>余暇活動の時は、一緒に寄り添い時間を過ごしている。又、一人で長い時間いる事のない様声掛けをしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>朝の起床から、日中の過ごし方、就寝に至るまで決定は本人が行っている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>AMの健康体操には積極的に参加、合唱も大きい声が聞こえている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>希望の地を挙げて頂いてのドライブや、花見、ショッピング、外食等行事として計画している。又、急な外出にも出来る限り応じている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>看護師による巡回、及び定期的なバイタル測定、体重測定、水分、排泄チェック表等で観察行っている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>体調不良時には医務との協力。又、買い物床屋さん等の対応。困った事があれば傾聴し、解決に向け支援している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>来訪時や訴え時に話を伺い、返答、又は支援に反映させているが、うまく話が伝わらず誤解されてしまう事もあり、誤解のない様時間を作っていきたい。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>知人の方の来訪の他、ボランティアさんが来訪し定期的に交流を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	町内会行事の誘いや、お庭の花見の誘いなど少しずつ増えている。
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいがより ④ほとんどいない	入居者さんの状態の変化に応じた支援に悩む事もあるが、全職員との情報交換やアドバイスなどを持ちより、力を合わず事に意欲的に働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	概ね満足して頂いていると思うが、帰宅願望の表出もある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	状況に応じて報告・連絡を行うが、うまく伝わらない事もある。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
一人にしない、寂しくない、退屈させない、でも、自由に過ごせるよう毎日の余暇活動には運動やクイズ、趣味と幅広く提供し、選択して頂いています。又、行事では希望の多いドライブ、ショッピング、外食等そして、皆さんに手作りして頂く、季節のおやつ作りを多く取り入れている。
夏場は、お天気の良い日はいつも外気浴を兼ね、中庭で日課としている健康体操やお茶会を行い、楽しんでいます。
家庭菜園も年々広くなり、育てる喜び、収穫の喜びを皆で味わっています。明るく、楽しいぬくもりのある日常生活を心掛けています。